

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874001783		
法人名	有限会社 ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき姫路阿成		
所在地	兵庫県姫路市飾磨区阿成鹿古408		
自己評価作成日	平成28年12月15日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-14
訪問調査日	平成29年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所テーマ【普段(いつも)と 変わらない暮らしを いつまでも】を実現させる為に、その人らしい暮らしが何かを常に自問自答しながら、取り組んでいます。月1回は外出し、季節感を味わって頂けるようにしています。外出時は外食をセットにしており、地域で生活出来るようにしています。日々の生活においても午前中に散歩を実施しています。フロアー・居室の環境整備を行い、季節感を感じて頂けるようにしています。ヒヤリハット等であがった事例を会議・カンファレンスで話し合い、個別対応・利用者本位に安全に生活出来るように日々行っています。又通院が困難な方は訪問診療で健康管理を行っており、看取りの対応が出来る環境作りが出来ています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①自己決定による暮らし・事業所主導による日常の演出ではなく、ご本人の今迄の暮らしが継続できるよう「普段(いつも)と 変わらない暮らしを いつまでも」(事業所テーマ)を軸に、様々なプログラム(多様なボランティア協力、児童・生徒との交流、近隣の方々とのふれあい等)を提案し、入居者個々が自己決定しながら穏やかな日々(暮らし)となるように支援している。②家族とともに・運営推進会議での意見交換(家族の参加が多数)、事業所への訪問頻度も多く、また、退居された入居者家族による園芸ボランティア等、事業所と協同しての入居者支援が実践されている。③地域交流・貢献・日々の暮らしの中での近隣の方々との交流(散歩時や買い物時での会話)「事業所の季節飾りや草花の見学」、認知症カフェの計画での交流、地域との防災への協同、な実習生(トライやるウィーク、特別支援学校生、大学生等)の受け入れ等々、事業所の能力を地域に貢献できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にしている	法人理念の理解をふかめる為に勉強会を行い、一つ一つの言葉の意味の共通認識を図っています。朝に唱和を職員の意識付けを行っています。	認知症高齢者への理解を深め(年6回の勉強会実施)、「普段(いつも)と変わらない暮らしをいつまでも」(事業所テーマ)の実現に向け、職員一同が取り組み、その空気感が入居者の安心感を醸成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の買い物・散歩で近所の方々に挨拶をし、交流を図っています。又定期的に近所の喫茶店にモーニング・おやつと出かけ馴染みの関係性を構築しています。	近隣の方々とは、頂き物(野菜等)、施設の季節飾りの見学、買い物・散歩時の挨拶等、日常から様々な場面で係わりを持っている。また、児童・生徒・ボランティアとの交流等、地域に根差した日々が展開されている。	今後も、地域密着型サービスの理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の防災訓練等に参加し車いす介助の方法等を伝えに行ったりしている。又包括と連携しGHの内容等の見学会を定期的に開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、GHであった事故事例やヒヤリハットの対策を報告し、改善案を頂いている。今後は地域との交流の仕方を話し合う予定です。	事業所情報をDVD等で可視化する工夫、また、家族も相当数出席しており、事業所の実態が参加者で共有できている。地域交流、看取り介護、リスクマネジメント等、多岐に亘り相談・検討等の意見交換をして運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ボランティアの受け入れの相談や要望を定期的に話をしている。包括主催の地域ケア会議等に参加し辞令検討の資料等の提供を行っています。	市のGH連絡会・地域ケア会議に出席し、情報共有・課題の検討等を行い運営に活かしている。また、認知症家族のための相談窓口、地域の避難場所、認知症サポーター研修・見守り隊実習等でも共同している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自施設で勉強会等を行い、事が起る事に代替案を職員と話し合いを常に行い身体拘束が無い状態を維持している。	定期的な本社研修・事業所勉強会に加えて事業所内事例検討(毎月)を踏まえ、本人本位の日常が実践できているか検証している(「身体的拘束等の弊害」については職員で共有)。「言葉かけ」の方法とタイミングにも留意している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修や勉強会にて十分に理解している。利用者様の異変にも気づき、虐待を見逃さない様に注意を払っている。又入居者様との会話の中からの言葉を聞き逃さず、対応策を常に話し合っている。	研修・勉強会、日々の振り返りを通して「不適切なケア」のレベルからの払拭に取り組んでいる。職員の「孤立化」を防ぎ、チームケアアップのため、コミュニケーション重視での風通しの良い運営となるように努めている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症になっても、一人一人が人間らしく尊厳をもって生きてゆける。という事を職員が介護のプロとして認識が持てる様に自施設の勉強会等でおこなっています。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はおられないが、職員は研修・勉強会を通じて認知症高齢者への支援の方策として有効であることを理解しており、必要に応じてサポートができるように取組んでいる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時前より十分な説明を行い、入居者様・家族様に納得して頂いている。契約後も何か気になる事があれば随時説明を行い、その場その場で理解して頂いています。	事業所見学、日中帯での体験、質疑応答、アセスメント等を実施し、入居後に不具合が生じないようにして契約を締結している。契約時には関連書類を丁寧に説明(重度化・終末期への対応方針含)し、理解して頂いている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様に運営推進会議に参加して頂き、気になる事の意見を頂き、改善案を出している。このような会議の場に参加出来ない家族様に対しては面会時などに今の現状を伝え、今何を望んでいるのかを聞き改善に取り組み、月末のお便りに個別に進捗状況の報告をしている。	運営推進会議、行事参加時、来訪時、電話・WEB、意見箱等、様々な機会を設けて意見等を聴き取っている。頂いた意見等へは直ちに共有・検討しフィードバックしている。また、現在、「家族会」の設置も計画している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と日々、ケア・業務について話し、出てきた内容を月の会議で話し合い反映が出来る様になっている。出来ない事に関してはどこまでが出来て、どうすれば出来る様になるかを話し合っています。	月例会議において職員の意見・提案を聴き取り(毎回、複数の意見等が挙がっている)、全員で検討している(事業所で可能なことは即決し運営に活かしている)。また、管理者との個別面談、本日職員との意見交換も定例化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	マイチャレンジを実施し、個人目標を設定し、目標が達成できる環境作りをしている。目標達成できたかどうかは本人を交えてフィードバックしながら評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた研修の機会を設けている。職員に今学びたい事を聞き、オムツの研修等外部からの講師を招き自施設で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路市グループホーム協会に参加しネットワーク作りをしている。又市の研修会等で他事業所の見学をお願いし職員とともに行き意見交換を行っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを通して入居者様と煩瑣日合う機会を設け、何気ない一言に耳を傾け信頼関係の構築に努めています。家族様からもGHIに対する要望を聞き、バックグラウンドの作成に協力いただいています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居をするにあたっての不安等を聞きながら、要望に答えられる様にしている。何でも話せる環境作りの為に介護計画書の説明の際に今の不安等を常に聞き、職員とも共有しています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していたサービスを聞き、その代替えが何にあたるか説明し、包括・地域が行っているサービスの情報提供を行い、利用できる様に支援している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	援助する側・援助される側の関係ではなく、共に生活するパートナーとして生活をどう送るかを共に考えながら行っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が本当はしたいが出来ない事など家族様の要望を聞きながら、支援しています。職員は前に出すぎず実施しています。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約時に馴染みの関係を聞き、来訪できる事を伝え、定期的に面会に来られています。美容院など今までの所で行える様に家族様の協力を得ています。	家族との外出(買い物、食事、通院等)・外泊(旅行、自宅での寛ぎ等)、友人・知人の訪問、馴染みの方との電話連絡等、今迄の生活感が出来るだけ長く継続できるように支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の席の確保を行い、会話しやすい環境作りをしている。孤立しがちな方は、職員が間に入り、ご利用者様同士が関わり支え合えるよう工夫し、その時々に応じた対応をしている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も連絡を取り、様子を伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通して入居者様と煩瑣日合う機会を設け、何気ない一言に耳を傾け意向調査を行っています。本人本位に検討するために家族様に、バックグラウンドの作成に協力いただいています。	入居者個々人との係わり(会話、言動、仕草・表情等)の中から、ご本人の望む日常となるように、その思い・意向を汲み取っている。キャッチした情報は、申送り・連絡ノート等で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的にあセスメント表を見直し情報の追加などを行っている。家族様に本人様との会話を伝えそこから出てくる情報収集をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を時期別に合わせて記入すようにし、一日の過ごし方等全員が把握できる仕組みが出来ている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・家族様より意見、要望を伺いながら、他職種からの情報を踏まえた色々な観点からの介護計画を作成している。定期的に個別カンファレンスを行っている。	入居者の思い・意向、家族の要望(聴き取り実施)に職員(パートナー)、医療従事者の意見を踏まえ、ご本人に適合した有用性の高い介護計画を作成している。毎月実施するケアカンファレンスの内容を計画の見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録に工夫した内容等を入れている。職員間で情報共有を行い、カンファレンス時にケア方法を決め、介護計画書に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の様々なサービスの情報収集を行い、本人様・家族様の要望に沿えるサービスを提供したり、取り入れたりと柔軟に対応している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	契約時に今まで活用していた地域資源等を聞き、継続して参加できるように支援している。日々の買い物・散歩で近所の方々に挨拶をし、交流を図っています。又定期的に近所の喫茶店にモーニング・おやつと出かけ馴染みの関係性を構築しています。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医(内科・訪問診療・訪問歯科)がある事を伝え選んでもらっている。状態に合わせて訪問診療等を説明し、本人様・家族様が納得した医療を受けられる様に支援している。	協力医2名(「内科」)による往診、急変時での対応(24Hオンコール体制)により健康管理を行っている。入居前からのかかりつけ医を継続している方もおられ(5名)、通院同行は家族と協働している。訪問歯科診療も導入している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員からの相談・報告等少しの変化でも報告が来ている状態です。その中で健康管理が行われており、協力医・薬剤師との連携が図れている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様と連携を密にし、病院に出向き回復状況の把握に努めています。病院のソーシャルワーカーとも情報交換に努めている。往診の方に関しては入院をせずにほおずきで治療を行っている。その際に入院が必要となればDrの関わりがある入院施設に紹介をしてもらう話が出来ている。	入院中は、入居者の不安感を軽減するため職員が面会に行き家族とも情報を共有している。病院とは早期退院に向けて連携し、退院時カンファレンスにも出席し、ホームでの生活に不具合が生じないように努めている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の話に関しては全入居者・家族様に話をし、意向調査をしている。ほおずきも終末期を過ごす一つの選択肢として家族様に提案をしている。	重度化・終末期の状態になった場合には、ご本人にとって望ましいケア・「生」となるよう関係者(本人・家族、医療従事者、事業所)で相談・検討しながら取り組んでいる。ホームでの最期を望まれる方への体制は整備できている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内・施設内における研修・勉強会を実施し、全職員が対応できるように取り組んでいる。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	11月に夜間の参集訓練を実施し、非常災害時のBCPを作成し周知徹底している。運営推進会議でも地域との連携について話し合いを行っている。	定例(年2回)での通報・消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施している(消防署立会いあり)。避難場所としての事業所の整備、地域の防災マップ作りや災害訓練への参加等、地域との協力体制も整っている。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の生活や生活歴を把握し、個々の自尊心・羞恥心に配慮しながら声かけや対応をしている。	入居者お一人おひとりの現況及び自尊心・羞恥心に充分配慮しながら、今迄の暮らしで培ってこられた事柄(技能・趣味・習慣等)が、暮らしの中で活かせるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の出来る事。出来ない事。出来るがしたくない事。出来ないがしたい事。の把握に努め、個々の状態に合わせた生活を送ってもらえる様に情報収集を行い、実施をされている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務とケアの違いについて会議等で話し合い、ケアの部分の改善を行っている。個々の強みを活かしたケアが出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の買物等、家族様に了承を得て預り金から一緒に買い物に行き、購入をしている。また訪問美容など依頼し、外出をしにくい方にも楽しんで頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日近くのスーパーと一緒に買い物に行き、会話を楽しみながら食事作り、後片付けを行っている。又月に1度の外食を各フロアで実施している。誕生日の日には食べたい物等を聞き、個別で外食や喫茶店に行っている。	利用者は、献立、食材の購入(事業所内の畑庭園での収穫野菜含)、調理、盛付け、洗い物等の中で、出来る部分を職員と一緒に取り組んでいる。毎月の外食(喫茶含)や手作りおやつも楽しみ事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の病歴、好みを把握し状態に応じた食事形態を検討し、日々のチェックを行っている。水分補給に関しては勉強会を行い、1日の水分量を決め		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人の状態に応じた口腔ケアを実施している。入居者様・家族様の希望を伺い月一回の訪問歯科診療も実施している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排尿は最後まで出来る様子をモットーにトイレ誘導等を行っている。またリハビリパンツとパットの使用方法についても勉強会を行い、自尊心に配慮しながらリハビリパンツから布パンツの変更に努めている。	入居者個々人の現況及び排泄パターンとそのサインを把握し、その方にマッチした方法(2人介助等)で、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。夜間帯もご本人の状況あった方法でサポートしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調管理表により、毎日の排便確認を行いチェックを行っている。日々の散歩等で運動を行い、腸の運動を促している。食物繊維なども考慮しながらメニュー作りをしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節に応じたゆず湯・しょうぶ湯等の実施を行い、DSが休日の際は銭湯の雰囲気を楽しんで頂ける様にDSの大浴場を使用している。又体調不良等で入浴が出来ない場合には手浴・足浴・清拭などを実施している。	週3回の入浴を基本に(ご本人の希望により増やす方もある)している。併設事業所のミストシャワーの利用や2人介助での個浴等、ご本人にとって寛ぎの時間となるよう取組んでいる。季節湯(菖蒲湯、柚子湯等)も喜んでおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳の部屋・ソファを活用し、状況に応じた休息を促している。夜間なかなか入眠できない方には足浴を実施し、安眠を促す等の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局に居宅療養管理指導を依頼し、薬剤師に薬の副作用等の説明を受けている。状態が変化した際には医師と薬剤師と連携して行っている。服薬管理マニュアルの見直し、服薬手順等を統一している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを適宜、取り直しその時、その時の状況・状態に合わせた楽しみ事・気分転換を支援している。家族様にも本人様の思いを伝え、実現できる様に支援してもらっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	姫路市内の観光地に月一回は外出しており、若い頃の話をしてもらいながら、次に聞く場所をきめています。家族様にも定期的な外出の協力を頂いており、施設で行った場所などの情報交換を行い、色々な場所に行ける様にしている。	日々の散歩や買い物、庭園の草花や野菜の苗植えや水遣り等、日常的に外気に触れる機会の他、季節の花見(梅、桜、紅葉等)や希望者で実施している毎月の外食・喫茶ドライブ等「いつも」の暮らしが実現するよう支援している。	入居者のADLの低下や個々人の想いも違い、個別対応にも工夫と労力が求められることと察します。今後も今迄同様に「利用者の思いに沿った支援」の継続に期待をします。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭に関しては金庫内で預かりをさせてもらっています。買い物などの際はお金を持ってもらい、自分の物を買った際はご自身でレジで精算してもらえ様に支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い・年賀状など特定の時期に限りますが、家族様や大切な方に出すように支援をしています。携帯電話など持ち込みの方もおられ自由に電話をされています。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様による四季を感じられる手作りの品を飾ったり、季節の花を活けたり、より家庭的な雰囲気や季節感を感じとれる空間に近づけるよう心掛けている。玄関先には一目で季節が分かる様な飾りをしている。	「季節の花や飾りつけ」がされた玄関口(近隣住民の方も見学に来られる)、開放的で適度な採光が入るリビング、行事写真が貼付された壁面、野菜等が収穫できる庭園や季節の草花が楽しめる花壇等、心地よい共用空間が醸成されている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳部屋等、気の合った方同士が会話しながら過ごせるよう一人ひとりの席を確保している。食卓の座席はその時々状況により、見直しを行っている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅の居室に近づけるよう、ベッドやタンス等、使い慣れた品を持参して頂いている。写真や思い出の品等もご家族様に依頼し、本人様が安心して居心地の良い空間づくりに配慮している。	入居者個々人の馴染みの品物(ソファ・筆筒、家族写真等)を持ち込み、居心地の良い居室となるように支援している。安全面では、身体状況(ADL状態等)に適合した居室環境となるように工夫もされている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有場所・居室が分かりやすい様、表示している。居室内入り口・共有スペース壁側すべて・トイレ・脱衣場・浴室に手摺を設置し活用されている。浴室洗い場には、スベリ止めマット・肘付きの椅子を使用し転倒防止に努めている。		